



適期刈り取りを行い、被害粒の発生を抑えましょう!

秋田地区営農センター 主任 佐藤 怜太

●刈り取りを始める前に

刈り取り前に明きよや排水路の点検・補修などの排水対策を万全におきましょう。
また、雑草を放置したまま収穫をすると、汚損粒の発生する原因となります。収穫作業に入る前に確実に抜き取り、雑草のない状況で刈り取りをしましょう。

「帰化アサガオ類」や「アレチウリ」といった難防除雑草が増加しています。圃場内に蔓延すると土壌処理除草剤と中耕では防除が困難なため、見つけた場合にはお近くのJAまでご連絡ください。

●適期収穫の実施

大豆の枯れあがり程度、莢や子実の水分状態をよく見極めて、計画的な収穫を行うことが重要です。

- ① 莢を手で振ったときに「カラカラ」と乾いた音がしたら、大豆の成熟期です。その成熟期から10～15日後の、莢が「ポキッ」と折れる頃(莢水分50%以下)がコンバインでの収穫適期となります。莢水分が高いまま収穫すると莢汁などによる汚損粒の発生原因となりますので、注意してください。
- ② 朝露によって子実が湿っている時間帯を避けて、午前10時以降に水分がなくなってから刈り取りを行いましょう。
- ③ コンバインへの土の掻き込みも、汚損粒の発生につながります。草丈が短い大豆を収穫する場合は、コンバインの速度を抑えるなど丁寧な作業に努めてください。また、土が刈り取り部に入ったら速やかに作業を中止し、清掃を行いましょう。



▲適期作業を心がけ被害粒のない収穫作業に努めましょう。

●乾燥時の留意点

乾燥前の子実水分と乾燥条件によって、「裂皮粒」や「しわ粒」などの被害粒が発生する原因となるので注意してください。急激に表面水分を下げず、じっくり乾燥するように気を付けましょう。

裂皮粒 乾燥初期に表面水分のみが急激に低下した場合に発生します。

しわ粒 裂皮発生の後から、変形した乾燥表皮に子実の中心部から水分が移行して発生します。

乾燥温度の目安

子実水分	室温
18%	+15℃以下
22%	+8℃以下
26%	無加温(常温通風)